

『悔い改めは、あなたにも必要です！』

'20/12/27

聖書箇所: ルカの福音書 13 章 1-9 節 (新約 p.142)

早いもので、今年も、今日が最後の礼拝となりました…。そこで、今日、皆さんと一緒に学んでいきたい聖書箇所は、ルカ伝 13 章に記されてある、イエス様が「悔い改め」について教えてくださいました、聖書のみことばです。

命題: 私たちの悔い改めに関して、イエス様が教えてくださいました事柄とは？

ところで、皆さんは、普段、「悔い改め」というものをされているでしょうか？…ひょっとしたら、一部のクリスチャンの方たちは、「悔い改めというものは、私たちがイエス様を信じるときに、ただ一度きり、行なうべきものであって…、クリスチャンになって以降は、もう悔い改める必要が無い…」と思っておられるかも知れません。しかし、聖書のみことばは、それは教えておりません。私たち人間は皆、例え、あなたがクリスチャンであろうとなかろうと、しっかりと自分の罪と向き合っ、神の前に正しい悔い改めをなすべきことを教えてくれています。今日は、そういったことを、皆さんとご一緒に確認をしていきたいと思います。願わくは、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、神様が与えようとしてくださっている、救いの恵みに預かることができるようになるだけでなく、クリスチャンの皆さんも、日々、正しい悔い改めをしていくことによって、ますます、私たちの主であられるイエス・キリストに似た者へと変えられていくことを期待します。

I・救いに必要なのは、悔い改めである！（1-3 節）

どうぞ、まずは、今日与えられたみことばの内、1-3 節に注目していきましょう。このみことばを見てみますと、イエス様は、私たちが「正しい悔い改めを経験しているかどうか？」で永遠が変わってくる。…すなわち、**私たちが救われるためには、この“悔い改め”が必要である！**ということを教えてくださいました。ルカ 13:1-3 には、こう記されています。

- 1 ちょうどそのとき、ある人たちがやって来て、イエスに報告した。ピラトがガリラヤ人たちの血をガリラヤ人たちのささげるいけにえに混ぜたというのである。
- 2 イエスは彼らに答えて言われた。「そのガリラヤ人たちがそのような災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い人たちだとも思うのですか。」
- 3 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。

● 私たち人間が置かれている 状況

この 1 節をご覧くださいますと、ある時、イエス様のもとに、何人かの者たちがやって来て、イエス様に対して、あることの報告をしたということが分かります。その報告といいますが、『**ピラトがガリラヤ人たちの血をガリラヤ人たちのささげるいけにえに混ぜた…**』ということでもあります。これは、つまり、簡単に言いますと、この時、ローマ帝国からユダヤに派遣されてきた、ピラトという総督が、ユダヤ人たちの同胞とも言い得る、ガリラヤ人たちのことを殺してしまっ！ということでもあります。このみことばでは、それが、『**いけにえに混ぜた…**』というような表現が使われてあることから察すると、恐らく、このことが起こったのは、ちょうど、お祭りの時期であったのだろうと思われます…。

しかし、そこに居合わせた者たちが考えてしまっしたのは、「きっと、そこで殺されてしまっ者たちは、何か特別、罪深い者たちだっのではないか…」ということだっのです。ここ日本でも、「因果応報」なんていう言葉がありますように、「何か、ある人が、そのような大変な目に遭っしたのは、きっと、その人が、それなり

の悪いことをしてきたからではないか？」というような考え方がありませんか？

恐らく、今日こちらに集まってくださっている皆さんの中には、そのように考える方は、1 人もいらっしゃらないかも知れません…。しかし、私たちほとんどすべてに共通していることがあります。⇒それは、もしも、私たちが、すべての人間たちを、①天国に行ける者と、②天国へ行けない者と、区分するとしたら、「自分は、きっと、天国へ行けるだろう…」と考えてしまっている！という点です。

私たち人間は、往々にして、「自分勝手な線引き」とでも言いましょうか…、自分自身を基準とした物の考え方をしてしまっています。あの人は裁かれて当然！しかし、自分はそうではないのです。あんな犯罪人は、神からの罰を受けてもやむを得ないけれども、もし、自分が神様からの罰を受けなければならないとしたら、「神様！どうしてですか？なぜ、私が裁きを受けないといけないのですか！」と訴えるのです。でも、果たして、私たちは神様から良いものを受けられるような、“ご立派な存在”でしょうか？

ここ 3 節で、イエス様は、そのことに対する答えを教えてくださいました。それが、3 節の、『**そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます！**』という部分です。このイエス様の言葉だけではありません！聖書のみことばは、一貫して、「私たち人間には、罪の裁きが待ち受けている！私たちの死後には神の裁きが…、永遠の苦しみがある！」ということを教えてくださいました。だから、私たちには、『**悔い改め**』が必要だ！ということ、イエス様は教えてくださいました。

このみことばだけではありません。例えば、II コリント 7:10 では、『**神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、“救いに至る悔い改め”を生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。**』という風に教えられています。『**救いに至る悔い改め…**』とありますように、『**悔い改め**』というものが、私たちの救いに関連して、非常に重要なものである！いや、絶対に欠かすことができないのだ！ということ、神様からのお言葉である聖書は訴えています。…と言うのも、この聖書は、私たち人間が皆、神の前には、罪人であり…、本来は、聖い神様の前に、裁かれなければならない存在である！ということ、を教えてくださいました。

● 聖書が教える 悔い改め とは？

では次に考えたいことは、「じゃあ、ここでイエス様がおっしゃっておられる悔い改めとは、具体的に、どういうものなのか？」ということ。…実は、ここで、『**悔い改め(る)**』と訳されてあるギリシヤ語は、「メタノエオー」(μετανοεω)という動詞が使われてあります。この言葉を、ギリシヤ語の辞書で調べますと、こう説明がされてあります。「①心を変える。考えを変える。人生における考え方の根本をすっかり変える。特に、心を働かせて、(福音に込められた)神の意志を受け入れ、キリストを自分の全生活の主として受け入れるという、神の前での生活態度の根本に関わる切り替えをすること。②考え方を根本から変えた結果として、罪と古い生き方から絶縁する…」と説明されてあります。

皆さん、聞いてくださいました？…まあ、簡単に説明をいたしますと、ここで言われている「悔い改め」とは、ただ単に、自分の考えや理解を変えるというような“小さな変化”のことではありません。それこそ、自分のすべてが変わるほどの“大きな変化”を言うのです！…でも、皆さん、知っています？…実は今日、多くのキリスト教会では、この悔い改めを、「それは単なる…、考えや理解(真の神、罪、イエス・キリストについて)が、それまでのものと変わるだけだ。それは、小さな変化である…」と教える傾向にあります。

しかし、聖書のみことばは、私たちが信仰を持って救われることを、こう教えます…。II コリント 5:17、『**だれでもキリストのうちにあるなら、その人は“新しく造られた者”です。“古いものは過ぎ去って”、見よ、“すべてが新しくなりました”。**』って…。いかがでしょうか？皆さん？果たして、神様のお言葉である聖書は、私たちが信仰を持って救われることを…、つまり、今日のみことばで言うところの「悔い改め」という

とを、「それは、ちっぽけな変化である…。私たちのほんの一部が、ほんのちよっぴり変わるだけだ…」と教えているでしょうか？それとも、私たちがイエス様を信じて救われることは、「それこそ、私たちの考えだけでなく…。生きる目的も…。価値観も…。すべて神様が新しく造り替えられるほどに、大きく変えられることである！」と教えているでしょうか？どちらでしょう？

II・悔い改めは、あなた自身にも必要である！（4-5節）

どうぞ、皆さん。もう1度、今日のみことばであるルカ伝 13 章に戻っていただきまして、その 4-5 節をご覧ください。ここで、イエス様は同じような話を持ち出して、当時、イエス様の周りに居た者たちに対して、ある大事なことを教えようとしておられます。それは、**悔い改めというものが、“あなた”自身にも必要である！**ということです。

4 また、シロアムの塔が倒れ落ちて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも罪深い人たちだったとも思うのですか。

5 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

●このみことばが語られた 文脈

ここでイエス様は、恐らく、つい最近に起こったであろう、ある事故のことを引用しておられます。どうやら、それは、『シロアムの塔』と呼ばれていた建物が崩れて、そのことによって 18 人もの尊い命が失われてしまったことであろう、ということは分かります。…正直、先程、イエス様が耳にされた、ガリラヤ人たちが総督ピラトによって殺されてしまったという事件とあまり違わないように思われます。しかし、先程の事件に比べると、このシロアムの塔の一件は、事件ではなく、“事故”であります。

でも、そんな場合であっても、「あれは天罰だ！あの事故で亡くなった者たちは、きっと、罪深い者たちだったに違いない…」なんていう風に、特に、この時代の人たちは、迷信深く、考える傾向にあったのです。…皆さん、覚えてくださっています？例えば、ヨハネ伝 9 章で、イエス様の一行は、生まれつきの盲人…、つまり、目の見えない人を見かけました。すると、弟子たちは、その盲人について、イエス様にこう尋ねるのです、『先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。』（ヨハネ 9:2）って…。

⇒これは、つまり、この当時、病気や障害というものが、神様からの天罰のようなものの結果であるというようなことが信じられていたからです。…だから、この盲人が、生まれつき目が見えないで生まれてきたのは、この盲人が、この世に生を受ける前に何か罪を犯したのか？あるいは、この者の両親が何か罪を犯したからですか？というようなことを、この当時、弟子たちは考えたわけです。…このように、私たちは皆、自分ではなくて、こと他人の罪や問題には、人一倍敏感です。だから、他人の問題や罪については、すぐに分かって…、それが、自分自身のこととなると、なかなか分かりません。そうじゃありません？

ところで、皆さん。今日のみことばの冒頭には、『ちょうどそのとき…』とありますが、これは一体、どういう「とき」だったのでしょうか？⇒どうぞ、皆さん。少し前のルカ 12:54 以降をご覧くださいませ。『54 群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が起るのを見るとすぐに、『にわか雨が来るぞ』と言い、事実そのとおりになります。55 また南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ』と言い、事実そのとおりになります。56 偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。57 また、なぜ自分から進んで、何が正しいかを判断しないのですか。58 あ

なたを告訴する者といっしょに役人の前に行くときは、途中でも、熱心に彼と和解するよう努めなさい。そうでないと、その人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行きます。裁判官は執行人に引き渡し、執行人は牢に投げ込んでしまいます。59 あなたに言います。最後の一レプタを支払うまでは、そこから決して出られないのです。』

⇒ここは、かなり前に学んだみことばですが…、ここでイエス様は、「和解できる内に和解しておきなさい！」ということをおっしゃっています。…と言いますのは、和解ができなくなったら、もう私たちは罰を受けるしかなくなるからです。…と言いますのも、実は、ここでイエス様は、私たち人間と神様との和解というものを想定して話しをしてくださっています。…と言うのも、私たち人間が皆、真の造り主なる神様のことを無視して…、その神様に反抗して、罪を犯し続けているからです！だから、あのローマ書では、「そのような私たちの上に、神様からの怒りが啓示されている！」と教えるわけです！だから、私たちには悔い改めが必要なのです。…そういったことを、イエス様は、パリサイ人たちがやろうと始めて、すべての者たちに対して訴えておられるのです。

そこで、今日のルカ 13 章です。『1 ちょうどそのとき、ある人たちがやって来て…』、イエス様に対して、ガリラヤ人たちが殺されてしまったという報告をしたわけです。皆さんは、この時の状況を分かってくださいませ？イエス様が悔い改めについて話をしてくださっていた、『ちょうどそのとき…』に、ガリラヤ人たちが殺されてしまったという話を聞いて、周りの人たちはこう思ってしまったわけです！「ああ、なるほど…。その悔い改めをしなかった愚かな者たち（つまり、ガリラヤ人たちが）、天罰を受けて、殺されてしまったんですね。」って…。そんな風な印象を、多くの者たちは持ってしまったのです。

だから、イエス様は、同じような例えを2回も繰り返されて、他人事のような感覚しか持たずに…、そういったことを自分自身のこととして受け入れようとしない者たちに対して、「いや！あなた方も、このままだと滅ぼされる運命にあるのですよ！それが分からないですか！」ということをおっしゃっているのです。私たち人間は、なかなか、厳しいメッセージを聞いても、それが自分に対して語られているのだ！という緊張感と言うか、自分に対するものだという自覚を持つことがありません。自分のことだとは認めたくないのです。

だから、イエス様は、ここ 5 節で、『そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも、しっかりと悔い改めないなら、みな同じように滅びます！』とおっしゃって、この悔い改めが、一部の者たちにはなく…、すべての者に…、言い換えますと、今この話を聞いていても、どこか他人事のように考えてしまっている、そんなあなたに対して、「悔い改めなさい！」ということをおっしゃっています。私たちは、何らかの実害が無いと、すぐに、元の自分へと戻ってしまいます。しかし、それって、本当の悔い改めでしょうか？あるいは、本物の信仰でしょうか？

●クリスチャンたちが犯しやすい 間違い

先程も言いましたように、すべての人間は皆、罪人であるがゆえに、悔い改めが必要です。しかし、私を含め、多くのクリスチャンたちは、ひよつとしたら、自分たちが神様によって救われた…、清められたからと言って、クリスチャンでない方たちのことを裁いてしまったり、見下してしまったりしてはいないでしょうか？

だから、イエス様は、マタイ伝 7 章の「山上の説教」で、『3 また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちり目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。4 兄弟に向かって、『あなたの目のちり目を取らせてください』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。』と問われたわけでしょう？…私たち人間は皆、他人の罪や問題点には気付いても、自分自身のこととなると、なかなか、そうはいきません。でも、だからこそ、私たちは、自分が思う以上に、自分自身に対して、厳しく…、かつ客観的に見るような練習を積んでいく必要があるのです…。

今、引用したマタイ 7 章のみことばで、イエス様は、そういったことを注意されたのではないのでしょうか？…他人の罪や問題にばかり気付いて、なかなか、自分自身の罪や問題に向き合おうとしない…。そういったことをイエス様は注意されたはずですよ。そうでしょ？

そういったことを教えるために…。また、聞く耳を持つとしない者たちが多く居ることをご存じだったから、イエス様は、この後で、もう1つの例えを紹介してくださっています。それが、6 節以降の内容になります。

Ⅲ・神は今、あなたを待って、**忍耐** してくださっている！(6-9 節)

次に続く、6-9 節で、イエス様が教えてくださっていることは、**今、神様が皆さんの悔い改めるのを待って、“忍耐”をしてくださっている！**ということでありです。天の神様は、ちっぽけな私たち人間のことを粗末に扱ってられるのでは、決してありません。それどころか、私たち人間が、自分の救いというものに対して、危機感を持って、しっかりと自分自身でも見極めることができるよう、ちゃんと必要なアドバイスを与えてくださっているのです。

6 イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。実を取りに来たが、何も見つからなかった。

7 そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。三年もの間、やって来ては、このいちじくの実のなるのを待っているのに、なっていたためしがない。これを切り倒してしまいなさい。何のために土地をふさいでいるのですか。』

8 番人は答えて言った。『ご主人。どうか、ことし一年そのままにしてやってください。木の回りを掘って、肥やしをやってみますから。

9 もしそれで来年、実を結ばばよし、それでもダメなら、切り倒してください。』

●私たちが 吟味 すべきこと？

今読んだ 6-9 節の例えの中で、イエス様はどういったところに強調を置いておられます？それは、私たちの信仰でしょうか？あるいは、悔い改めてしょうか？それとも、ぶどう園のことでしょうか？あるいはそれとも、実がなっているかどうかだったでしょうか？⇒恐らく、その答えを皆さんは、ご存じだろうと思います。ここで、イエス様は、いちじくの実がなっているかどうか？ということに焦点を当てるために、この例え話をしてくださいました。そうですよね？だったら、私たちも、しっかりと吟味をしないといけないことは…。**果たして、私たちが、ご主人様の期待しておられるような実を結んでいるかどうか？**ということのはずですよ。

実は、この当時、『ぶどう園』に、『いちじくの木』が植えられることは不自然なことではありませんでした。

ここで、私たちが気付かないといけないことは、要するに、いちじくの木は良い場所に植えられて…。必要な手入れをされていた、ということです。たまたま、道端に生えていた木ではありません。そして、当然のことながら、植えた人は、いちじくの実がなることを期待して待っていたわけです。しかし、その期待が見事に裏切られてしまいました…。しかも、それは、1度や2度ではありませんでした…。

このみことばには、『三年もの間…』と書かれてあります。確かに、いちじくは植えてから、実を結ぶまで数年の時が必要だそうですが、『実を取りに来たが…』と書かれてありますように、本当なら、充分実がなっていて当然の状態だったのに、まだ実がなっていなかった…。つまり、繰り返し繰り返し、ご主人様が裏切られてきたということなのです。

そのことを受けて、ぶどう園の番人が、ご主人様に対して、もう少し…。もう1年の猶予を与えてくれるよう願います。そこで、この例え話は終わっています。このことから分かりますのは、今、私たちの造り主なる神様は、忍耐をもって、私たちが神様に喜ばれるような実を結ぶことを待ってくださっている！ということ

です。ですから、私が今、皆さんに問わないといけないことは、果たして、皆さんが今、神様が喜ばれるような実を結んでくださっているかどうか？ということですよ。いかがでしょうか？

このみことばで、イエス様が皆さんに問うておられるのは、皆さんが、熱心に教会に通っておられるかどうか？ではありません。それも重要なことだと思いますが、でも、そのこと以上に、神様が皆さんに関心を持っておられるのは、皆さんが、果たして、信仰の良い実(御霊の実=愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制)を結んでおられるかどうかです。皆さんが、聖書のみことばを一体、どれほど、ご存じなのか？あるいは、どういった奉仕をし…。どれほどの献金をしておられるのか？そういったことも、どうでも良いことであるとは決して思いませんが、しかし、皆さんが神様の喜ばれるような実を結んでいるかどうかということは、もっと重要なことなのです。

Ⅱコリント 13:5に、こう書かれてあります。『あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。』…って…。ここでは、「ためす」という言葉と「吟味する」というような…。よく似た言葉が繰り返されています。つまりは、強調ですよ！また、ここで、『自分自身を…』とあるのは、皆さんの内に持っている信仰を試すことは、皆さんにしかできないからです！また、ここでは、①「ためす」という言葉も、②「吟味する」という言葉も、ギリシャ語の「現在命令法」という表現が使われています。この命令法が教えてくれていますことは、そのことを1度や2度行なったからと言って、満足するのではなく、**そのことを絶えず、継続していきなさい！**という意味なのです。じゃあ、果たして皆さんは、自分自身の信仰や自分の下した選択、あるいは、ご自分の生き方などを振り返って、日々、吟味しておられるかどうかです。

●私たちがクリスチャンに 必要 なこと？

ある時、イエス様は、弟子たちに対して、こういったことを教えてくださいました。ルカ 9:23、『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』って…。そのように、私たちは、月に1度や2度ではなくて…。日々、自分に対して神様が託してくださった恵みと責任とを覚えて、毎日毎日歩んでいくべきなのです！

もう一つ、大変重要なのは、**Ⅰヨハネ 1:9のみことば**です。そこで、使徒ヨハネは、こう教えます。『もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。』って…。このように、私たちは、日々、自分自身の罪や弱さ、あるいは、問題点などと向き合って、それを真摯に反省して、神様に清めていただくからこそ、霊的に成長できていくのです。そうでしょ？

また、どうぞ、皆さん、**黙示録 2:1-5**をお開きくださいます？『1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行つて、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。』

⇒このみことばは、教会に対して書き送られてあります。言わば、クリスチャンに対して、です。しかし、そんなクリスチャンに対しても、聖書のみことばは、悔い改めるべきことを教えてくれています。その理由は、例え、救われたクリスチャンであっても、完璧ではないからです。例え、その人が素晴らしい牧師であったとしても…。あるいは、どれほど敬虔なクリスチャンであろうと…。罪を犯すこともあるでしょうし…。当然、その人も人間である以上、弱さを抱えておられるはずですよ。

ですから、私や皆さんに必要なことは、「もう自分は救われている！私は過去に悔い改めた！」という
ような態度ではなく…、絶えず、神様の前に自分自身を吟味して、悔い改めることではないでしょうか。
果たして、皆さんは日々、自分の歩みを覚えて…、吟味して…、そうして、神様の前に悔い改めておら
れるでしょうか？神様が願っておられるのは、皆さんが、日々、神様の恵みに立ち返って…、その上で、
神様の前に謙虚になって…、自分自身の歩みを吟味してくださることであると思います。そんな風に私た
ちが残された人生を歩んでいく時、ますます、自分が救われているという確信を増していくことができ…、
日々、神様からの助けをいただきながら、歩んでいくことができるのではないのでしょうか？

そうして、クリスチャンではない皆さん…。神は今も、皆さんが、真の造り主なる神様を信じて、その神
が遣わしてくださった救い主イエス様を信じて、救われることを願っておられます。Ⅱペテロ3:9に、『主は、
ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あ
なたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに
進むことを望んでおられるのです。』と書かれてありますように、神様は、今現在も忍耐をもって、皆さんが
悔い改めて、救われることを願っておられます。しかし、それも、いつか終わる時がやってきます。チャンス
は今しか無いのです！どうか、今の内に…、1日も早くに、イエス様を信じて、救いを受け取ってください
ますように、心からお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきま
す。